

学習指導改善調査 実践モニター 実施計画書

私のプロフィール		
氏名	六井 洋	
勤務先	新発田市立外ヶ輪小学校	
○ 担当学年	5年生	
	実践教科	算数

★取組の方向

私の学習面でも生活面でも「勇気と意欲をもって行動できる子どもを育てる」が信条。学習で言えば、「分かっているのに手を挙げない」「問題を解くことをあきらめる」ではなく、「やってみよう！」という気持ちをもって学習に取り組めるような支援・指導が大切であると考えている。やってみたらできた経験、自信が次への意欲に結びつき、ひいては、学習全体の力の向上に繋がっていくという形が理想である。今回は、『考え方や考える習慣』を身に付けさせることに力を入れ、児童に達成感を味わわせていきたい。

児童数 男子19名 女子16名 計35名
 今年の学習指導改善調査の結果・・・算数（平均56.2）

学級の実態		数と計算（分数）				数量関係（2次元表）				
		かさ①	かさ②	長さ	説明	数値①	数値②	B説明	C説明	表完成
	通過率	62.9	60.0	48.6	17.1	91.4	94.3	20	25.7	85.7
	誤答率	37.1	40.0	51.4	82.9	8.6	5.7	77.1	68.6	14.3
	無答率	0	0	0	0	0	0	2.9	5.7	0

テープの長さを分数で表す問題は、約半数の児童が正解しているのに対し、その説明ができていない児童は2割に満たない。また、2次元表の問題では、表を完成できた児童が8割以上いたが、それを言葉と式で正しく説明できた児童は約2割であった。このことから、「順序立てて説明する力」が弱いことがわかる。

今後の方
 向

「考える力」を育てるために、『エリアカード（ワークシート）』を活用する。
 『エリアカード』とは、問題解決学習の際に自分の考えを記入するワークシートである。このカードは、1枚の紙に、数の操作や計算を中心に考える数・計算エリア、テープ図や数直線、図形をもとに考える図・線エリア、自分の考えを整理し文章にする説明エリア、友達の発表や自分の考えについて振り返る感想エリアの4つのエリアに分かれているものである。
 これを継続的に用いることによって、以下の考える力を高める効果が得られると考える。
 ①文章題を読み、半具体物操作を行うことで、見通しをもち、最後まで考えることができる。
 ②問題に対する自分自身の思考の流れが分かり、つまずきに気付くことができる。
 ③自力解決→説明→発表という順序で必ず考えを一度文章化し、整理することで分かりやすく説明ができる。
 ④友達のよい説明を聞いたり、自分で繰り返したりしていく中で筋道立てた考え方が身に付く。
 ④教師が授業後も一人一人の児童の思考の流れやつまずきを確認し、次時に生かすことができる

